令和3年度 第1回 佐賀県後期高齢者医療広域連合運営懇話会 会議概要

- 日 時 令和3年10月15日(金) 14:06~15:36
- 場 所 佐賀市大和支所 2階 第2会議室
- 委員出席者 倉田会長、山元委員、城委員、江口隆郎委員、今泉委員、狩野委員
- 事務局 牧瀬事務局長、実本副事務局長兼総務課長、吉田業務課長、 右近総務課副課長兼財政係長、無津呂業務課副課長兼給付係長、 富永総務係長、吉岡企画・保健係長、稲富資格賦課係長

○ 意見及び質疑応答要旨

1 後期高齢者医療の現状について

- (事務局)・後期高齢者医療費の動向
 - ・県内各市町1人当たり医療費の状況
 - ・医療給付費の状況
- (委員) 療養給付費(令和2年度)の中で「はり・きゅう」が増加しているのは何故 か。

高額療養費の限度額を超えた現金給付が増加しているのは何故か。

(事務局) 『はり・きゅう』については、新規開設(太良町)で多く施術をされている ため。

高額療養費の現金給付が増えている分については、外来で高度先進治療を受けられた方が複数おられたためだと思われる。

- (委員) 県内の1人当たり医療費がコロナの影響で令和元年度と比べると令和2年度 で医療費が下がっている中、大町町が増加しているのは何故か。
- (事務局) 新武雄病院が大町町立病院を引き継ぎ、その大町診療所が令和元年に閉院となっている。閉院前までは、外来で血圧の薬を処方されることが多かったが、 閉院後はそれが急激に減り脳梗塞の患者が多く出ている状況を見ると、閉院の 影響により重症化しているのではないかと推測している。
- (委員) 医療費削減には、予防措置が必要だと思うがどうだろうか。
- (事務局) 予防の観点から全市町において一体的実施事業で予防したいと考えている。 その予防をするためには健診の受診率を高めてどういう疾患が多いのか分析 し、健康事業に力を入れていきたいと思う。

2 令和3年度保険料の賦課状況について

(事務局) ・令和3年度保険料の賦課状況について

(委員) 約7割の方が何らかの軽減となっているが、全国的に佐賀県は軽減対象者の 割合が高いのか。

(事務局) 全国的にみて、佐賀県は軽減対象者の割合が高い。

3 新型コロナウイルス感染症への対応について

(事務局) ・新型コロナウイルス感染症への対応について

(委員) 来年度も同じような対応になるのか。

(事務局) 現時点では何も決定していないが、状況に応じて国から指示があると思われる。

4 長寿健康づくり事業について

(事務局) ・継続事業

意見なし

5 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について

(事務局) ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の概要

- ・訪問実施事業
- ・低栄養指導事業

(委員) 以前は、特定健診は74歳までとなっていた。その後、後期高齢者に移行してから透析の患者が増加している傾向があると聞いていたが、現状はどうなっているか。

(事務局) 具体的な数字は持ち合わせていないが、依然として透析患者が後期高齢者で 始まる場合が多いため、各市町で糖尿病重症化予防に関するハイリスクアプロ ーチを一体的実施事業にて行っている。

(委員) 厚生労働省が行う「高齢者に対する質問票(15項目)」があるが、それを 一体的事業の中で行っているか。

(事務局) 高齢者の質問票(15項目)については、健診時の問診票の中に入っている。

6 マイナンバー取得促進について

(事務局)・事業の概要

(委員) カードリーダーの普及が大事だが、稼働状況はどうか。

(事務局) 全国でも7%の稼働率であり、まだまだ普及していない状況。

7 その他

(委員) ・広域連合の職員については各市町から派遣されているが、派遣元に戻る際に 後期高齢に関係する部署に配属されているのか。

(事務局) 各市町の状況は異なるが、およそ半数は関係する部署へ異動されている。

(15:36 会議終了)